

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401188		
法人名	医療法人 康整会		
事業所名	グループホーム ツーハーツ		
所在地	福岡市早良区次郎丸5丁目18-28		
自己評価作成日	平成26年12月24日	評価結果確定日	平成27年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成27年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

母体の医療機関と連携を図り、各ユニットに看護師資格を持つ職員を配置。終末ケアにも対応している。
一人一人の個性を大切に、見守り、寄り添うケアを実践し、入居者と共に笑って過ごせる施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護者、入居者の心が寄り添う、という意味で「ツーハーツ」と名付けられた、整形外科の医療法人を母体とする「ツーハーツ」はデイサービスと併設型の3ユニットグループホームで、敷地内には有料老人ホームなども隣接されている。環状道路からも近く、歯科大や中学校などもあり、市内からのアクセスも良い。開設から15年が経ち、地域との交流も積極的になされ、今では実習の受け入れをした学生が職員として勤務されるほど、地域に根付いている。病院やデイサービスとも連携してサービスにリハビリ的な要素も取り入れ、機能維持に努めている。病院との連携と、職員に看護職が多いことから医療支援も手厚く、長年入居されている方の重度化にも対応が可能で、点滴や吸引の支援も行い、ここで最期を希望される方にも対応されている。今後も地域福祉を支える事業所として発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果 (せせらぎ)

自己	外部	項目	自己評価(せせらぎ)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の名札に携行し、何時でも確認できるようにしており、唱和している。また、ユニットカンファレンスで協議・理念に基づいたケアを実践している。	ツーハーツ全体で共通の4つの理念が開設時からあり、各ユニットで夕方の送り時に唱和し、職員の携行やユニット内の掲示により共有している。「一人ひとりの個性を大切に～」とあり、其の人の生活が送れるように考えられ「地域との触れ合い～」と、地域交流にも活かされている。	全体の理念共有を進めているが、わかりやすく覚えやすいものとしてグループホーム独自の理念なども検討されてはどうだろうか。いつも話されている、入居者、家族、スタッフの和を入れ込んだものなど職員全体で話し合われることに期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	恒例行事に地域の方を招き、演劇や歌など、一緒に楽しまれたり、隣接する中学校の職場体験や専門学校からの実習受け入れをしている。	施設全体で行う夏祭りは地域に開放して、軽食なども振る舞い毎年盛況である。地域清掃には職員が参加し、日ごろも近隣の方との挨拶など触れ合いがあり、差し入れを頂くこともある。協力もあって地域の「灯明祭」を施設でも小規模で開催出来るようになり、入居者にも喜ばれた。ボランティア訪問も毎月あり、以前実習に来た学生が職員に採用されたこともあった。	地域への情報発信や、認知症の啓蒙として、キャラバンメイトや勉強会などが行われていくことにも期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて本来のグループホームを理解して頂くため、困難事例に対して支援方法を説明したり、認知症介護の理解が深められるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、入居者状況や行事報告を行い、参加者の行政機関への質疑応答もあり参考にしている。	2ヶ月毎に開催され、民生委員、老人クラブ、町内会長、市職員、地域包括、病院看護師などが参加され、以前は家族も参加していた。状況報告のほか、認知症についての勉強会を行うこともあった。行政への質問やサービスに関する助言も多く、「灯明祭」の開催にもつながった。行事と同日開催して、様子を観てもらったこともある。	家族への運営推進会議の案内を全体に行い、出欠案内と共に、意見の有無を聞くことで、より発展的な会議につなげてはどうだろうか。また、議事録の閲覧や公開を行って、取組みが共有されることにも期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内状を送付。意見交換やアドバイスを求めている。	運営推進会議にも市の参加があり、その際に相談などもされている。市のサービスに関してや、介護保険に関する質問を電話ですることもある。介護更新時には窓口を訪問し、何かあった時の連絡も取りやすい。地域包括には行事の呼びかけをすることもあり、参加されたこともあった。	事業所で発行している「ツーハーツだより」も配布や報告することで、日頃の取組を伝え、交流のきっかけにしてはどうだろうか。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修において職員の理解を深め、毎月行う身体拘束廃止委員会にて、各部署との意見交換を行い拘束のないケアを実践している。	徘徊者への地域の見守りも手厚く、1階の玄関も夜間のみ施錠にしている。ユニットは場合によっては施錠もするが、自分で開けて出ること出来る。不穏になった方には見守りや付き添いで外出も可能で、現在は四点柵や車いすベルトの利用もない。施設内研修で、毎年取り上げ、委員会活動などでもスピーチロックなどに注意している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修において職員の理解を深めている。事例をあげ、グループワークを行い、防止対策を考案し、未然に防げるようスタッフの意識付けを行っている。			

H26自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(せせらぎ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、必要に応じ対応が出来るよう施設内研修で取り上げ、理解を深めている。	現在、成年後見制度の利用が1名いるが、入居前からの利用で、入居後利用に至った事例はなかった。施設内研修で毎年権利擁護に関しても取り上げ、外部講師を招いての研修や事業所で資料回覧もしている。職員も基本的な制度の理解を進め、必要時は関係機関と相談して対応を行う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書・運営規程等を読み上げ説明、不安や疑問点を確認し、理解・納得して頂いている。契約時には必ず職員2名で対応することで、十分な説明が出来るよう配慮している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出入りに意見箱を設置しているが、ご家族の面会時、声掛けをし要望など尋ねて、対応についてスタッフ間で検討している。	1階ホールやユニット入り口にも意見箱を設置しているが、意見回収はなかった。昨年、施設全体で家族アンケートを実施し、結果掲示も行った。意見から職員の名前を知りたいとの要望があり、名札の掲示が検討されている。全体では家族会も開かれ、アンケート報告を行い、家族を招いた行事の企画も多い。	家族会の参加を増やしたり、フランクな感じで意見を引き出す取組として、行事と同日開催での企画などを検討されてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われる運営会議にて話し合う場が設けられ、グループホーム会議にて報告・意見など提案を聞く機会を設けている。	3ユニット合同の会議が毎月有り、それとは別に、ユニットごとのカンファレンスも開かれ、法人からの伝達事項や個別の問題などについて話される。職員の提案から、フロア内での休憩用にベンチを設置したり、配置変えなども行った。会議には全員が参加し、非番の職員も事前に意見をあげて議事録で伝達している。管理者も現場に入ることによって日常的にも意見があげやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績、勤務形態、資格取得などの諸条件にて社員登用など、勤務条件の向上がはかられている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別による採用の可否はない。職員の希望に応じ、休みや研修参加など全体的に配慮した勤務シフトを作成している。	法人内での職員異動あり。男性職員も徐々に増えてきて、年代も10～60代と幅広く、定年後の雇用継続もされている。シフトも相談してユニット同士でも協力しながら、休み時間や場所も確保されている。実習の受け入れから採用に至ったこともある。入社後の資格取得を支援したり、研修案内や参加の機会ももたれている。	外部研修の案内はなされているが、参加機会が少ないので、職員の負担軽減や参加しやすい働きかけを検討することで、技能向上やモチベーションアップにつなげられることが望まれる。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修に取り入れられており、支援の中で活かされている。特に接遇に関して徹底指導している。	施設内研修は全員参加で、昨年は接遇、マナー、服務規程に関しての研修が開かれた。全職員がレポートも作成し、意識を高めている。直近では身体拘束防止に関して、DVDによる動画研修を施し、職員の理解を深めた。	事業所として全般的な人権に関しての研修や、啓発活動が行われることに期待したい。また人権に関しての資料回覧や、外部研修参加時の伝達が行われることも望まれる。

H26自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(せせらぎ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を毎月開催している。外部研修参加への援助について、法人からの補助体制が構築されている。また、各種資格取得のためのスクーリング出席の際、有給休暇が取得できる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際、他事業所とのネットワーク作りを心掛け、新しい情報収集に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報収集や、面接を行い、徐々に信頼を深め、本人が安心して生活出来るようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を行い、要望、意見などを聞き、安心される介護を提供している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報の収集や、事前面談で必要とされる支援を見極め対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	計算問題や書き方、歌等職員と一緒に過ごす時間を多く取り入れ共に支えあう関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と過ごされた時間の会話や表情など情報交換しながら、充実した生活が送れるよう心掛けている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身体機能の低下により、外出等は困難になっているが、昔からのご友人やご親類の面会にて途切れないよう支援に努めている。	家族と協力して、一時帰宅や外泊する方もいる。以前は幼なじみの来訪もあり、馴染みになった民生委員が季がうに立ち寄ることもあった。元々近隣に住んでいた方も多く、通院時に知り合いに会うことも多い。入居時に聞き取った馴染みの場所や関係を把握し、昔の仕事関連の作業をしてもらうこともある。	

H26自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(せせらぎ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで過ごす時間を多く取り、気の合った人との座席も考え楽しい時間が過ごせるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居など、当施設を退去した後も相談があれば対応できる旨を契約時、退去時に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴を大切に、困難事例があればユニットカンファなどで意見を出し合いより本人に適した方法を検討している。	独自のアセスメント様式を使って、入居時しばらくの期間は1ヶ月毎に見直し、落ち着いてからは3ヶ月毎に行っている。毎月のカンファレンスで現場からの情報を聞き取り、アセスメントに反映させており、基本情報も介護更新時などに取り直している。認知の重い方は家族に意向を聞いたり、日頃の反応などを見て把握につなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談や関係各所からの情報を基に、生活歴を把握し入居後はご家族や本人との話などで安心されるサービスができるように共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録した申し送り帳や、スタッフ同士の申し送りで現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前のアセスメントや本人とのコミュニケーションを多くとり、気付きなどは申し送りやカンファレンスで取り上げ、ご家族に報告し、介護計画に反映させている。	毎日のプラン実施チェックを目標ごとに行い、それを元にしてカンファレンスで毎月のモニタリングにつなげている。現場の意見を聞きながら、各ユニットの計画作成担当者がプラン作成などを受け持っている。プランは3ヶ月毎に見直し、担当者会議で、医師やPTからの意見も口頭で聞き取っている。職員もプランに目を通して、全体での情報共有を行っている。	職員のプラン理解や、スキルアップのために、毎月のモニタリングの目標総括などを担当者別に割り振ってはどうか。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに個々の情報を毎日記入しスタッフは必ず目を通し、良いアイデアは即実践して見直し、その結果も介護計画見直しなどに役立てている。		

H26自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(せせらぎ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化などあれば、ご家族や入居者の要望を取り入れており、母体である整形外科や専門医との連携を行い、ニーズ対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣中学の職場体験の受け入れや、医療短大の実習、行事などに子ども会の参加呼びかけを行い、地域とのふれあいを大切にしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は本人家族の意向に沿って支援している。基本はご家族対応となっているが、ご家族が対応困難なときは状況に応じて施設で対応している。	以前からのかかりつけ医を継続出来るが、母体病院が主治医の際は往診も受けられる。他科受診は基本的に家族に依頼し、必要時には看護師が同行したり、添え書きによって情報提供し、事業所で通院支援することもある。日中は常時看護師が勤務し、健康管理も行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は各ユニットに配属され、健康状態の把握をし、勤務外も常に連絡が取れる体制をとり状態によっては出勤し対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者及びスタッフが定期的に訪問し、医療ソーシャルワーカーや看護師、医師との情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期を「慣れ親しんだこの施設で」とご家族の希望があれば、担当医と連携を取り、看取りを行っている。	昨年は看取った事例も多く、入居者の高齢化に伴ってターミナル対応も増え、現在も対応中である。家族の要望を受けて最期まで支援する方針で、重度化の際には同意を得て、意向を確認している。対応時には看取りプランも作成し、カンファレンスもこまめに開き、看護師や医師も24時間オンコールで対応している。職員も経験を積んできて、最期をツーツーハーツで、と希望される方も多く、家族にも信頼されている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に施設内研修などで、緊急時の対応の勉強を実施している。		

H26自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(せせらぎ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。消化訓練では必ず散水栓を実際に使用して、全職員が使えるように訓練している。	訓練は2回とも消防署立会で、夜間想定訓練を行っている。施設全体の合同で、上層階からの避難は外階段や、シューターによって行われる。運営推進会議での訓練報告もあり、施設は地域の避難場所としても提供し、備蓄物も準備される。地域防災の案内もあり、こちらには法人として参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声かけやタイミングを見計らい視線を合わせて傾聴し、尊厳を大切にしている。施設内の研修でもカリキュラムに取り込まれて勉強している。	施設研修で、接遇、マナーの研修を毎回行い、外部講師に来てもらうこともあった。食事介助も声掛けしながら丁寧に行っている。写真利用も本人の意向を聞き取って許可を得たものだけに留める。日頃も視線を合わせたケアを心がけ、新人や実習生にも徹底している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で本人の意思を尊重し自身の決定ができるように援助している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの参加も無理強いせず、計算や歌、体操などの参加は自由にして頂き、ゆったりとした生活を送れるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな衣服を選んで頂いている。訪問理美容で好みの髪型やカラーにして貰ったり、毎日お化粧される方もいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽などで落ち着いた雰囲気の中、職員も一緒に食卓を囲み、食事をしている。食器洗いなど自発的に手伝われる方もいる。	施設全体を、厨房委託による集中管理している。メニューもバラエティに富み、品数も多い。職員も一緒に同じものを食事し、入居者も配下膳やお皿ふきなど出来る事を手伝っている。ご飯のみユニットごとに炊飯し、おやつレクなどで調理することもある。メニューの要望や感想は給食会議で伝え、レクとして行事食や通所と一緒にケータリングのお寿司、そば打ち体験をすることもあった。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理の下、個々人の体調や病状、咀嚼、嚥下状態に応じた食事を提供している。摂取量が少ないときは補助栄養食品などで補っている。		

H26自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(せせらぎ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの見守りや必要に応じて介助を行い、残渣物の無いようチェックしている。夜間は義歯を取り外し、洗浄剤使用にて清潔に保つようになっている。往診歯科の受診をすることができる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ希望の意思表示が難しい方は、その方特有のサインをキャッチし、早めの誘導にて失敗の回数を減らしている。	入居者ごとの排泄チェック表があり、トイレへの排泄誘導を基本とし、夜間などはポータブルトイレを活用することもある。それぞれの排泄リズムを把握し、其の人にあった支援に努め、状況にあった下着などの提案もしている。それぞれのシグナルを読み取り自立に向けた支援を心がけ、便秘がちな人にも、看護師などと協力して対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と運動での便秘予防を基本とし、排泄チェック表で排便状況の確認を行い、不必要な薬剤の使用は避けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ一人ひとりの希望に沿うようにしている。拒否の強い方に関しては、声掛けの工夫やスタッフの交代などで対応できている。	ユニットバスに個浴での入浴を行い、週2回、午前から昼すぎまでに支援している。順番や時間帯は希望を聞きながら対応し、拒まれた際にも時間や職員を変えながら働きかけている。誘導もうまくいった事例などを共有し、気分を変えて入浴剤を使ったり、好みのシャンプーを使う方もいる。入浴を皮膚観察やコミュニケーションの場としても役立てている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の睡眠時間を記録し、把握した上で本人の希望と体調により、柔軟に対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、薬剤情報を活用し、処方薬の確認をしている。処方日には薬剤師の管理を受け、副作用の有無、経過などの報告を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや縫い物、新聞読み、時代劇の視聴など、それぞれの嗜好に合う役割や楽しみごとを行ってもらっている。		

H26自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(せせらぎ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、車に乗って季節の花々を見に行ったり、博多祇園山笠の飾り山を見学したり楽しんで頂いている。	系列のデイスサービスの車を借りてドライブに行ったり、山笠見物や花見など、季節折々の外出行事も年4回程度楽しんでいる。日頃も気候の良い時は近隣の散歩や畑の水やりなどで外気浴し、雨天の際も施設内を歩いたり、敷地内で安全に歩行機会をもっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭的な事は事務にて管理している。使用については家族の了解を得ている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、何時でも電話をしても良いとの、家族の方の了解も得ており、度々利用され喜ばれている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、温度や湿度に気を配り、不快な臭気がしないよう消臭剤や空気清浄機を使用している。	2階に2ユニット、3階に1ユニットで配置され、各ユニットそれぞれに2箇所のトイレと、浴室がある。床はパネルカーペットで、各ユニットが特色をもって飾りつけをしたり、犬や猫の写真なども飾られている。小上がりの和室スペースもあり、レクに使ったり、休憩スペースとしても活用できる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に新たにベンチを設置したりと自席以外にも寛げる場所を設けている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方の協力を得て、普段使用されていた筆筒やテレビ、仏壇などを置いたり、ご家族の写真などを飾って心地良く過ごして頂けるよう努めている。	ギャッジベッドが備え付けられ、必要な方にはエアマットの準備もある。フロアから続いたカーペット素材で、清掃もなされている。それぞれが使い慣れた鏡台やダンスなどを持ち込み、加湿器なども使って過しやすいように配慮されていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物は適切に管理し、怪我や転倒の無いように見守りのなか自由に行動されている。		

自己評価および外部評価結果 (こもれび)(そよかぜ)				
自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(そよかぜ)
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の名札に携行し、何時でも確認できるようにしており、唱和している。また、ユニットカンファレンスで協議・理念に基づいたケアを実践している。	個々の名札に携行し、何時でも確認できるようにしており、唱和している。また、ユニットカンファレンスで協議・理念に基づいたケアを実践している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例行事に地域の方を招き、演劇や歌など、一緒に楽しまれたり、隣接する中学校の職場体験や専門学校からの実習受け入れをしている。	恒例行事に地域の方を招き、演劇や歌など、一緒に楽しまれたり、隣接する中学校の職場体験や専門学校からの実習受け入れをしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて本来のグループホームを理解して頂くため、困難事例に対して支援方法を説明したり、認知症介護の理解が深められるよう努めている。	運営推進会議にて本来のグループホームを理解して頂くため、困難事例に対して支援方法を説明したり、認知症介護の理解が深められるよう努めている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、入居者状況や行事報告を行い、参加者の行政機関への質疑応答もあり参考になっている。	定期的開催し、入居者状況や行事報告を行い、参加者の行政機関への質疑応答もあり参考になっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内状を送付。意見交換やアドバイスを求めている。	運営推進会議の案内状を送付。意見交換やアドバイスを求めている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修において職員の理解を深め、毎月行う身体拘束廃止委員会にて、各部署との意見交換を行い拘束のないケアを実践している。	施設内研修において職員の理解を深め、毎月行う身体拘束廃止委員会にて、各部署との意見交換を行い拘束のないケアを実践している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修において職員の理解を深めている。事例をあげ、グループワークを行い、防止対策を考案し、未然に防げるようスタッフの意識付けを行っている。	施設内研修において職員の理解を深めている。事例をあげ、グループワークを行い、防止対策を考案し、未然に防げるようスタッフの意識付けを行っている。

H26自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(そよかぜ)
			実践状況	実践状況
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、必要に応じ対応が出来るよう施設内研修で取り上げ、理解を深めている。	現在対象者はいないが、必要に応じ対応が出来るよう施設内研修で取り上げ、理解を深めている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書・運営規程等を読み上げ説明、不安や疑問点を確認し、理解・納得して頂いている。契約時には必ず職員2名で対応することで、十分な説明が出来るよう配慮している。	契約の際、重要事項説明書・運営規程等を読み上げ説明、不安や疑問点を確認し、理解・納得して頂いている。契約時には必ず職員2名で対応することで、十分な説明が出来るよう配慮している。
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出入り口に意見箱を設置しているが、ご家族の面会時、声掛けをし要望など尋ねて、対応についてスタッフ間で検討している。	出入り口に意見箱を設置しているが、ご家族の面会時、声掛けをし要望など尋ねて、対応についてスタッフ間で検討している。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われる運営会議にて話し合う場が設けられ、グループホーム会議にて報告・意見など提案を聞く機会を設けている。	グループホーム会議や施設内研修及びユニットカンファの中で意見交換を行い、法人内の運営会議において代表者・管理者が話し合う機会を設けている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績、勤務形態、資格取得などの諸条件にて社員登用など、勤務条件の向上がはかられている。	勤務実績、勤務形態、資格取得などの諸条件にて社員登用など、勤務条件の向上がはかられている。
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別による採用の可否はない。職員の希望に応じ、休みや研修参加など全体的に配慮した勤務シフトを作成している。	年齢・性別による採用の可否はない。職員の希望に応じ、休みや研修参加など全体的に配慮した勤務シフトを作成している。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修に取り入れられており、支援の中で活かされている。特に接遇に関して徹底指導している。	施設内研修に取り入れられており、支援の中で活かされている。特に接遇に関して徹底指導している。

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(そよかぜ)
			実践状況	実践状況
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を毎月開催している。外部研修参加への援助について、法人からの補助体制が構築されている。また、各種資格取得のためのスクーリング出席の際、有給休暇が取得できる。	施設内研修を毎月開催している。外部研修参加への援助について、法人からの補助体制が構築されている。また、各種資格取得のためのスクーリング出席の際、有給休暇が取得できる。
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際、他事業所とのネットワーク作りを心掛け、新しい情報収集に努めている。	外部研修に参加した際、他事業所とのネットワーク作りを心掛け、新しい情報収集に努めている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報収集や、面接を行い、徐々に信頼を深め、本人が安心して生活出来るようにしている。	入居前の情報収集や、面接を行い、徐々に信頼を深め、本人が安心して生活出来るようにしている。
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を行い、要望、意見などを聞き、安心される介護を提供している。	事前面接を行い、要望、意見などを聞き、安心される介護を提供している。
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報の収集や、事前面談で必要とされる支援を見極め対応している。	入居前情報の収集や、事前面談で必要とされる支援を見極め対応している。
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	計算問題や書き方、歌等職員と一緒に過ごす時間を多く取り入れ共に支えあう関係を築いている。	貼り絵、オセロなど職員と一緒に過ごす時間を多く取り入れ、共に支えあう関係を築いている。
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と過ごされた時間の会話や表情など情報交換しながら、充実した生活が送れるよう心掛けている。	ご家族と過ごされた時間の会話や表情など情報交換しながら、充実した生活が送れるよう心掛けている。
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身体機能の低下により、外出等は困難になっているが、昔からのご友人やご親類の面会にて途切れないよう支援に努めている。	家族の協力の下で対応している。友人との面会はプライバシーの観点により、事前に家族に確認を取り対応している。

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(そよかぜ)
			実践状況	実践状況
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員の情報共有により、新しい気づきがあればカンファレンスでとりあげ、介護計画に取り入れる。	入居者の相性を考慮し、日頃の座席配置を配慮している。職員がサポートしながら入居者間の関係構築の援助を行っている。
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居など、当施設を退去した後も相談があれば対応できる旨を契約時、退去時に説明している。	他施設へ転居など、当施設を退去した後も相談があれば対応できる旨を契約時、退去時に説明している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活を支えながら、本人の希望や意向を把握し、自己決定できるように働きかけている。	日頃の関わりの中で、対話を重視し、本人の意向や思いを把握するように努めている。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談や家族より得られた情報を基に、個人の会話をより把握するように努めている。	事前面談やケアマネからの情報提供、家族からの情報を基に把握している。
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の残存能力や心身の状況は、日々変化していくので、十分に把握し、サービス提供するとともに、申し送りによる情報の徹底と共有に勤める。	日々の生活の状態を申し送りの中でしっかりと伝えること、記録に残すことで把握に努めている。
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人だけでなく、家族より情報を集め、その中でニーズを把握したうえで、カンファレンスを開催し立案している。	毎月のカンファレンスに全職員が集い、本人、家族の要望を基に話し合い、介護計画に反映させている。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員で常に情報共有をし、変化があればカンファレンスで検討し介護計画に取り入れる。	申し送りノート、個人カルテに記録し、情報を共有している。良いアイデア、新たな気づきがあればカンファレンスで取り上げ、介護計画への反映、ケアへの実践を行っている。

H26自己・外部評価表(GHツアーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(そよかぜ)
			実践状況	実践状況
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	整形外科医院が母体となっており、特定施設も併設されており、通所介護、住宅型老人ホームとも連携し、行事も共同計画している。	本人、家族の要望を取り入れた支援を行い、母体の医療機関、併設施設との連携を行い、季節感を感じられる行事を開催している。
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議を通し、防災時の地域の協力体制について検討している。	運営推進会議に地域住民、民生委員、包括支援センターを招き、意見交換、情報提供を行い、行事への参加を呼びかけている。近隣の中学、専門学校の職場体験、実習生を受け入れ、若年層との交流を図っている。
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や、本人の希望に沿い、以前よりかかりつけ医への通院を支援している。母体である整形外科医院との連携も常に図られている。	本人及び、家族の希望があればかかりつけ医の受診を継続され、日々の状況など情報を伝えている。母体の整形外科と連携を図り医療支援を行っている。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護師が配置されており、情報共有しながら、常に協力体制がとれるようになっている。	各ユニットに看護資格を持つ職員を介護職として配置し、協力体制をとっている。日々の生活の中で、小さな変化をも逃さず、変化があれば報告、相談している。時間外にも連絡がとれ、必要に応じて出勤している。
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に管理者や看護師が訪問し、主治医、ソーシャルワーカーより情報収集を行っている。	管理者又は看護資格所有者が医療機関に訪問し、主治医、MSW、看護師と情報交換を行っている。
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	慣れ親しんだ場所での終末期を迎えたいという希望が多くなってきている為、施設で可能な対応を十分説明し、同意を得て対応している。医療機関の医師への情報提供と、医師・家族・スタッフの話し合いの場も設けている。	終末期の支援希望があれば施設での対応を十分説明し納得を頂いて対応している。医療機関との連携にて情報交換を密にし、医師・家族との話し合いの場を設けている。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災センター消防士より、心配停止時の処置について研修会があり、多数参加している。急変時は看護師同士での情報交換や連携も行っている。	早良区防災センターより講師を招き、救命蘇生法、AEDの使用の講義を受け、演習を行っている。

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(そよかせ)
			実践状況	実践状況
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練が実施され、消火器の使用法も実演している。	年2回の防災・避難訓練を行い、消防計画書や機器の取り扱いマニュアル等は目立つ位置に常設している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に適した声掛け、視線を合わせての傾聴、常に尊厳や人格を尊重するように心掛けている。	声掛けの仕方や、プライバシーの尊重については特に気を付けており、施設内研修のカリキュラムにも組み込まれている。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こまめに観察し、言葉に出来ないサインを見逃すことなく、共感する気持ちで接し、自己決定できるよう配慮している。	何事もせかさず、笑顔で声掛けし、安心して希望が言えるよう心がけている。
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時、拒否があれば時間をずらすなど個人のペースに合わせてケアを行っている。レクリエーションも自由参加として無理強いはいはしないよう配慮している。	一人ひとりの表情や行動をよく観察し、希望を汲み取り、何事も無理強いしないようにしている。
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、好みのヘアスタイルヘアカラーを相談して決めている。日程が合わなければ近くの美容室へご家族同伴で行けるよう手配している。日常着は好みのものを家族に準備してもらっている。	ご本人の好きな衣服を選んで頂いている。訪問理美容で好みの髪型やカラーにして貰ったり、毎日お化粧をされる方もいる。
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも同じテーブル同じメニューで家庭的な雰囲気の中で食事を楽しんでいて、下膳を手伝って下さる方もいる。	音楽などで落ち着いた雰囲気の中で、職員も一緒に食卓を囲み、食事をしている。食器洗いなど自発的に手伝われる方もいる。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養管理がされており、個人の状況に応じた食事形態が提供されていて、水分摂取も食事時間外にも確保出来ている。嚥下困難時は、トロミ剤にて摂取しやすく支援されている。	栄養士の管理の下、個々人の体調や病状、咀嚼、嚥下状態に応じた食事を提供している。摂取量が少ないときは補助栄養食品などで補っている。

H26自己・外部評価表(GHツアーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(そよかせ)
			実践状況	実践状況
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守り、介助で実施。個人別に必要ときは訪問歯科往診とも連携している。	毎食後に口腔ケアの見守りや必要に応じて介助を行い、残渣物の無いようチェックしている。夜間は義歯を取り外し、洗浄剤使用にて清潔に保つようしている。往診歯科の受診をすることができる。
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導、介助を行っている。	トイレ希望の意思表示が難しい方は、その方特有のサインをキャッチし、早めの誘導にて失敗の回数を減らしている。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、水分摂取、腹部マッサージを行っていて、排便困難なときは医師の指示に従い適切な緩下剤を使用している。	水分摂取と運動での便秘予防を基本とし、排泄チェック表で排便状況の確認を行い、不必要な薬剤の使用は避けている。
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の体調に合わせて実施していて、状況に応じて連日入浴にも対応している。	出来るだけ一人ひとりの希望に沿うようしている。拒否の強い方に関しては、声掛けの工夫やスタッフの交代などで対応できている。
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠を充分確保できるように午睡時間に配慮している。本人の希望に沿いながら、休憩時間を決めている。	毎日の睡眠時間を記録し、把握した上で本人の希望と体調により、柔軟に対応している。
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の活用、服薬支援時は、名前、日付、服薬時間を読みあげて確認。新しい処方箋はスタッフ間で副作用も合わせて理解し、服薬介助している。	お薬手帳、薬剤情報を活用し、処方薬の確認をしている。処方日には薬剤師の管理を受け、副作用の有無、経過などの報告を行っている。
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴を理解したうえで、楽しみを見つけ、出来ることはやっていただき、共に生活を楽しめるよう支援している。	洗濯物たたみや縫い物、新聞読み、時代劇の視聴など、それぞれの嗜好に合う役割や楽しみごとを行ってもらっている。

H26自己・外部評価表(GHツーツーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(そよかぜ)
			実践状況	実践状況
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに近くの公園で花を楽しんだり、施設内の畑の野菜の収穫を楽しんだりしている。個別に買い物レクも取り入れて、外出支援を行っている。	天気の良い日には、車に乗って季節の花々を見に行ったり、博多祇園山笠の飾り山を見学したり楽しんで頂いている。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのコンビニへ、小さなお買い物に行ったり、学園祭で好きな食べ物を買ったり、自分のお金を使う支援を行っている。	金銭的な事は事務にて管理している。使用については家族の了解を得ている。
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が書くことは困難なので、毎月近況を知らせる手紙をスタッフが写真とともに家族へ送っている。	本人の希望があれば、何時でも電話をしても良いとの、家族の方の了解も得ており、度々利用され喜ばれている。
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は常に清潔に保たれていて、穏やかな音楽が流れている。季節の花を楽しんでもらえるように心掛けている。	清潔を保ち、温度や湿度に気を配り、不快な臭気がしないよう消臭剤や空気清浄機を使用している。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに3箇所、ソファとベンチがあり、畳のコーナーも別に設置されているので、思い思いのスペースで過ごすことが出来る。	フロア内に新たにベンチを設置したりと自席以外にも寛げる場所を設けている。
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた親しみのある家具の持ち込みを依頼しており、安心できるスペースの確保をしている。	家族の方の協力を得て、普段使用されていた筆筒やテレビ、仏壇などを置いたり、ご家族の写真などを飾って心地良く過ごして頂けるよう努めている。
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に傾聴、見守り、寄り添う事で、本人らしい生活をする事が出来る安全な生活環境を維持している。	危険な物は適切に管理し、怪我や転倒の無いように見守りのなか自由に行動されている。